This copy has been provided by the UBC Archives [or UBC Rare Books and Special Collections] and is to be used solely for research or private study.

JAPANESE-CANADIAN
COLLECTION

IV. B.

PLEASE RETAIN
ORIGINAL ORDER

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives
The University of British Columbia

◎トロント市民協会（ニ元デモクラシー委員会）
一世部ノ創立の経過

1946

一、二世を統合する

全國的中央機關設置の大綱定る

（トロント發）三月十六日午後トロント市民權ようご委員會主催の下に全國的聯絡統一機關設置に關する研究委員會を開催した。出席者は佐々木、信岡、鈴木、神野、花月、森、原田、内田、山下、小澤、田中、新谷、中井、久岡、三尾、堀、大西、日高、平林、岸本、荻野、龜岡の諸氏で、先づ中央機關設置の必要性を萬場一致で確認した後各委員の熱心なる討議により左の如く大綱を決定した

（一）中央機關の目的はマニトバ州市民協會創立總會にて決議され指示して來てある三項を基礎とすること

（二）一世とか二世とか區別せず日系人總てを一丸としたものを以て組織すること

（三）トロント市内は日系人總てをモクラシー委員會を統一的團體として在住日系人總てが右團體に加入するやうにすること

（四）オンタリオ州内や全國的の中央機關設置に關する具體案に就ては小委員會を設け研究と準備を委托すること

尚右小委員會は左の諸氏によつて構成されることになつた

田中、日高、佐々木、龜岡、内田、原田、小澤、大西、信夫

トロント市内の日系人團體統合

1946

龜岡德衛

全國的な單一中央機關結成の運動に就てはマニトバ州が逸早く其の準備を整へて州内の日本人全部を統一する市民協會を結成したが（ピーシー州でも市民權擁護協會本部を決定して統一）オンタリオ州でも此の運動は進んでゐる。

それへの準備工作としては先づ既成團體の整理統合が必要なのであるがトロント市内ではさきに開かれた市民權よう護委員會と交友會の合同會合に於て萬場一致を以てすべてデモクラシー委員會に加入し之をトロントに於ける統一團體とする希望決議が通過された。而してよう護委員會の研究委員會では右の決議に基き一世も二世も男女の別なく總てはデモクラシー委員會に加入する事を進言し、委員會では特に一世部を設けて一世會員の募集を進めてゐるが自發的にドシ〳〵加入する者があるので五月十八日に一世會員の初會合を開くことになつた。一世部を設けても何も一世だけで獨自の行動をとるのではなくデモクラシー委員會の一部門として一世間の社交と特に啓蒙につき運動に力を注ぐまでのものであつて之は過渡期に於ては必要なものであると云はねばならぬ。一方トロント交友會でも五月四日の總會に於て之を解散することに決定してデモクラシー委員會に加入することになり、二世兵士後援會でも五月十一日の總會に會をデモクラシー委員會の一部門として合同する案を提出する事になつてゐて後者との諒解も出來てゐる。

斯でトロント市内に於ける日系人の單一なる統一機關は漸次具體化しつゝあるが、ハミルトンやロンドン其他に於ても同じ歩みがとられて州内聯盟——而して全國的統合への進展に拍車をかけることを期待するものである。

APR-1946

◇（トロント發）日系人デモクラシー委員會では臨時に一世側幹事として龜岡德衛氏を擧げ會員募集運動を開始した。一世もデモクラシー委員會に加入して之をトロント市内の統一的團體とするといふ市民權よう護委員會の進言に基き四月五日のデモクラシー委員會の會合では既に二十名以上の加入者があつた

△トロント中民協會が組織されると共に一世六年十月民主委員會は解散された。その結果一世部もトロント中民協會と一世部となつた。

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

④ 創立總会

May 25, 1946

第一世の社交と啓發

トロントのデモクラシー委員會「一世部」組織さる

（トロント發）既報日系人デモクラシー委員會一世部設置のための集會は五月十八日夜オールネーション教會に於て開催、田中委員長が司會して「一世と二世が眞に協同の實を擧げる事になつた記録すべき事實を喜ぶ」旨の挨拶を述べ內田一作氏を議長に推して會議を進め元交友會の佐々木會長の挨拶、龜岡臨時幹事の經過報告があつて協議に入り豫定の如く「一世部」設置を決定して次の如くきめた

（一）一世部は一世だけの獨自の組織でなくデモクラシー委員會の一部門として一世間の社交と啓發の機關とする

（二）執行委員選出——來る十月開催のデモクラシー委員會の總會まで一世部の運營に携はるべき委員を次の如く選出

△委員長佐々木周一△幹事龜岡德衛△委員——內田一作、信岡良太郎、田中兼、大井藤吉、大西乙吉、清水小三郎、小澤正作、花月榮吉、鈴木利三、信夫三郎

（三）一世部の運營——△會員集會は春秋二回デモクラシー委員會總會前に開催△例會は社交と啓發を兼ねた茶話會として一世部主催で一般的なものとして開催△教育的な會合をも持つ△會員編成と部の會計事務の責任者を置く△一般的ウエルフエアに關する仕事に當るために社會部を置くほか各部門制度にしてそれぞれ責任者をおく、

（トロント發）日系加奈陀人デモクラシー委員會一世部では五月廿一日委員會を開催、各部門の責任者及び部員を左の通り互選した

△社交部長小澤、大井、谷田部△教育部長內田、田中、清水△財政部長信岡、花月△編成部長大西、三尾△社會部長信夫、鈴木

一世部設置の理由

デモクラシー委員會一世部は、トロント市內の日本人の統合と單一運動を進めるために一世も二世の委員會に加入することになり、二世を中心とするデモクラシー委員會の會合其他で一世は言葉の關係上それを良く理解することが出來ぬといふハンデキャップもあるため一世間の社交もかねて啓發の機關として設けたもので、過渡期に於ては必要とされてゐるものである。それを通して一世は、少しでも二世に近づく——眞の加奈陀市民になる事につとめる——といふ立前からである。從つて一世部は何も一世間の獨自の組織ではなくデモクラシー委員會の一部門としての一世間の社交と啓發の機關となつてゐるものであり、活動を便ならしめるために研究、社交、編成、財務の各部門をおいてゐる。そのプログラムの主なるものは次の如くである

△社交的な會合を通して啓發運動に努める△教育的な映畫を上映△一般的及び專門的なる研究の會合を持つ

④ 第二回總会

社交と啓發を目的の

トロントの民主委員會一世部總會

1946

[illegible]

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives

C. of Mr. SANNOSUKE ENNYU.

△ 市民権擁護委員会

△ 日系人の追放問題と市民権擁護委員会のため力タダ人の有志によって「英同委員会」が組織されたがそれを援助協力するため、日系人の市民権擁護委員会を全国的に組織された。

（トロントに於ては一九四五年十月廿日に結成した。）

△ 追放問題も一段落を遂げたので市民権擁護委員会は解散の段階に至りその後の日系人の諸々の問題に対処するために全国的連絡機関（設置運動の組織問題）

△ トロントに於ては市民権擁護委員会が解散されて日系人の市民権擁護のデモクレー委員会に変更した。一部は反対したがそれに対しデモクレー委員会は「理由は当時デモクレー委員会に対し反感があったためである。」

△ しかし日系統一機関組織に関して合同委員会に於てはデモクレー委員会をトロントに於ける統一団体として立れに参加するよう及対者自身も賛同していたし、しかも当時の一般的情勢に反対し得ないものがあり、結局それは当時各自がつ何ものかに依るしと云ふ気持ちがそうさせたのである。

△ （市民権擁護委員会解散に関する合会に於てつ……とした ものがあったと云ふ……エピソードがあった）

△ 訂正 ー別紙印刷物中ー が組織されたのは一九四六年でありまして一九四七年でなく

FOR RESEARCH PURPOSES ONLY
NOT TO BE REPRODUCED WITHOUT PERMISSION
Rare Books & Special Collections and University Archives